

東京や大阪のベンチャー企業が次々とサテライトオフィスを開設し、若者の移住者が増え、おしゃれなお店もオープンする四国の右下にある小さな町。今、美波町が地方創生の先進地として全国からの熱い視線を集めていることをご存じですか？この動きをさらに広げるために定められたのが、「美波ふるさと創造戦略」。「美波 地方創生だより」では、「それ何？」「どうして？どうやって？」「今どうなってるの？」を追いかけて、毎月お届けしています。

災害時の被害をより小さく！避難訓練で実証実験を実施

11月4日に行われる美波町避難訓練において、東町、戒町、中村町、奥河町、本町、西町、桜町の7地域では災害対策事業の実証実験が行われます。

今回の実証実験はサテライトオフィス企業 Skeed社の無線ネットワークなどの技術を活用。

対象地域の100名(そのうち30名が要介護者)にビーコンという無線信号で現在地などの情報を伝える装置を持ってもらい、避難訓練に参加していただく予定です。

今回の事業は美波町、徳島県南部総合県民局、株式会社Skeed、サイファー・テック株式会社、株式会社あわせ、徳島県文理大学、徳島大学など、産官学一体の推進事業委員会を新設し、総務省の採択を受けた国土強靱化計画の一環として災害時にいかに被害を最小に止めるかという目的で行われます。

その第一歩としての実証実験ですが、今後は対象外地域でも順次進めていき、有用な減災の手立てとしてシステムを確立していく予定です。

避難訓練やその後の災害対策は、町民の皆様の協力なしでは成功しないためご協力ください。同時に、いつか必ず起こると言われている「南海トラフ地震」に対して、各々心構えと対策をしておくことはとても重要です。



推進事業会議の様子

美波町インターンシップが開催されました

四国の右下協議会が主催する美波町インターンシップが8月7日～31日、町内の研修施設・城山交流拠点施設で行われました。

講師は5月に町内初の外資系企業としてサテライトオフィスを開設した株式会社スペースタイムエンジニアリングと共同研究・開発を行っている大阪大学。そして2月にサテライトオフィスを開設した株式会社イーツリーズ・ジャパンも指導陣に加わりました。

阿南高専本科・専攻科で情報工学を学ぶ学生6名が参加し、2組に分かれてドローンの運行制御、交通認証のプログラム構築に挑みました。

中間発表では指導陣の鋭い質問に苦戦していた学生たちも、最終発表では一定の成果が出せたようで、晴れやかな笑顔も見られました。

今夏、サテライトオフィス進出数が県内最多となった美波町。

進出企業の最先端の技術を持って産官学が一体となり、次世代の技術者を育てていく美波町インターンシップは地域での雇用にもつながるものとして注目されています。

